



東北大学助教授

五十嵐 太郎

豊洲6丁目

—親愛なる我が師ルクーヘー

1967年
1985年
1990年
1992年
2000年

フランス パリ生まれ
東京大学教養学部理科1類入学
東京大学工学部建築学科卒業
東京大学工学系大学院建築学専攻修士課程修了
博士（工学）

2004～05年
2005年

中部大学准教授
東北大学准教授

「進化しないことが建築の本質」

インタビュー：日本大学 一條真人/中村 太一

——今回は、様々な場で学生の作品を講評されてる五十嵐先生に評価する側から見た卒業設計というテーマでお話していただきたいです。

まずは、自分たちの世代と比べて、最近の学生の作品を見てどう感じますか？

ツールとしてコンピュータが広がって、その反動で模型が大きくなっているというのは事実だけど、設計そのものは、その時代の流行があって、どんな時代の学生もその影響は受けるものだし、その違いは、流行の違いだと思います。ただ、設計は格別によくなくなったとか、へたになったとかというのはあまり感じません。

まあ、図面を手で書かなくなって、コンピュータを使わずに引けと言ったら、きつと、へたになってると思うんだけど。

でも、設計そのものは進化していない、進化しないことが建築の本質なんです。

つまり、コンピュータなどの科学技術はすごい勢いで進化して50年前のものは性能が著しく悪い。けど、もし、建築でも同じようなことが起きていたら、大変なことなんです。

建築は割と芸術的な側面を持っていて、テクノロジー自体はコンクリート、鉄、ガラスを使いというフレームはあまり変わっていない。建築は、最も遅いテクノロジーと言えらると思います。木とか石を未だに使っていますよね。

だからこそ、500年前や1000年前の建築に対して、ミッドタウンのような建築がいいとは、一概に言い切れませんよね。それは、背の高い建物とかはできてきているけど、1000年前のゴシックのカテドラルよりいいと言い切れないうちにね。

建築のように500年経っても1000年経ってもいいと言える技術は珍しくて、それは芸術的な側面を持っているからです。表面は、その時代のツールや流行によって変化しますが、それ以外に関してはあまり変わらないので、変わったら大事件だと思えます。

このことは、卒計が良くなった、悪くなったという話ともリンクします。

——最近の学生は元気がないと言われていていると思いますが、五十嵐先生もそう感じますか？

そうは思いませんね。あれだけ大きな模型をつくる情熱はすごいと思います。昔はその情熱を図面に注いでいましたからね。

そう簡単に物事は変わらないと思っています。基本的に『最近の若者は・・・』論は嫌いですから。

——仙台卒制日本一決定戦などの講評会で、上位に食い込むような案とそうではない案の差はどこに出てきますか？

まず審査員が違えば、結果は違いますね。陸上のように極めて機械的に結果が出るような競技とフィギアスケートなどのように芸術点があるような競技のような違いです。建築の場合、後者のような側面が強いですからね。

しかし、一定の強さがある建築は残りますね。あと、半分は運ですよ。

つまり審査員が評価している作品の相対的バランスです。

案の斬新さ、発明度の高さ、コンセプトの面白さ、空間を破綻なく解いているか、社会的な批評性が強さ、など指標はいくつかありますが、その絡み合いの中で決まって行くので、そのときに絡み合いが、すべて優れていれば言うことはないですが、凸凹がある場合は、その作品で凸凹のどのパーツを見るかが結構、バランスによって変わってきます。

どの作品とどの作品の比較になった、ということでも差が出てきます。

——審査をするときに、心がけていることや注意していることはありますか？作品でも好きな作品とあんまり好きではない作品があると思うんですが。

これも場合によるんですが、いいものがある時には、がんばって自分の立場をかけて推そうと思いますが、そうでないときには、ワザと凸凹のある、変な作品を選んだりします。いつも同じ選び方をする訳ではありません。

僕の場合は、コンセプトをひたすら見たりとか、造形的な美しさがあるモノだけを見たりすることもあります。場合によって変わってきます。

さっき言った指標、発明度の高いものや社会的な批評性が強いものは、かなり優遇して評価しています。

——現在先生自身の卒業制作を出展されても評価されると感じますか？

自分でいうのもなんですが、デザインは他にあるにしてもコンセプトは満足しているので、評価されると思います。

自分の卒計のコンセプトは、単純にいうと、「5000年建築が残るにはどのようなプログラムを構築するか？」ということに言い換えられると思います。

この手のもので、自分の作品を超越しているもの、つまり5000年10000年という長いスパンの卒計は見たことがない。それに關連して1つ言うと、皇居の周りに計画しているのは時々みかけますが、皇居そのものに何か提案をするという案は見ることがない。

誰もが知っていて、これだけインパクトのある場所で、面白いこと考える人がなぜいないんだろうと、ずっと疑問を持っています。最近の学生はという話ではなく、昔からね。

学生の卒計ぐらい、ヤンチャなのに挑戦して欲しいと思います。そういった作品があれば、かなり推しますね。思いつきではなくて、かなりきちんとしたストーリーがあって、デザインや造形が優れていればですけどね。

——最後に学生に一言おねがいます。

明らかにマネしたものは評価されないから、やめた方がいい。

流行の影響が若干出るのはしょうがないけど、そっくりに作って評価してもらえと思ってるのは神経を疑うんだけどね。

入り口としてある程度影響を受けるのは、いい。しかし、そのままやれば格好いいものができるし、満足感は得られるかもしれないけど、人に評価してもらおうと思ったらもう少しひねるとかした方がいいよね。露骨にどこからか取ったというのがあまりにも見えているものはどうかと思います。自己満足であればそれでいいけど。ホント疑問に思います。